

巻 頭 言

東北文化学園大学医療福祉学看護学科の未来に向けて

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科は、平成 22 年 4 月に宮城県内で 4 つ目の看護に関する大学教育を行う学科として開学した。看護は、職業として 100 年以上の歴史を持つが、学問「看護学」としての歴史は浅く、看護教育についても専門学校中心に長い間教育が行われて来て、1952 年に公立大学家政学部に史上初の看護学科が新設され、翌 1953 年に国立大学医学部に衛生看護学科が新設され、1964 年に伝統ある短期大学が大学になるなど、大学における看護学教育は遅々として歩みながら、ここ 10 数年の間に 200 を越える看護系大学が誕生している。

看護を職業とする者にとって、看護を大学で教育することは長年の夢であったが、現在それが実現しつつあるとあってよい。最近では、大学院の設置も多くの大学で行われている。看護系大学や大学院の急増によって、看護教育に携わる教員についても資格や実力が問われるようになってきた。

看護学は、医学、社会学、心理学、教育学など様々な分野の知識や研究成果を借りて発展してきたが、看護学の発展のためには看護に携わるものが自らの手で、看護に関する現象の解明と理論の構築が必要と理解し、看護研究が盛んに行われるようになって、看護に関する学会も増えてきた。教育の場だけでなく、臨床の場でも「看護研究を行うのはあたりまえ」という考えが浸透してきている。

東北文化学園大学医療福祉学看護学科でもようやく「看護学科紀要」の第 1 巻第 1 号を発刊することができた。「看護学科紀要」の発刊は、看護学生の教育という観点だけでなく、看護教員が看護研究に携わり看護学の発展に寄与すると同時に、研究成果を論文としてまとめることは看護教員としての資質の向上に繋がり、看護学科の未来への飛躍に不可欠なものと考えられる。

今回の紀要への投稿数は少ないが、今後多くの投稿を期待して結びとしたい。

平成 24 年 3 月 14 日

看護学科

学科長 板垣 恵子